社会連携



三重県の寄附講座として地域を応援する

みんなで考える医療づくりをめざして…



◎寄附講座について

三重大学大学院医学系研究科地域医療学講 座は、三重県の寄附講座として2007年3月に 開設されました。過疎化・高齢化が進む地域、交 通が不便な地域における医療体制の検討や、地 域医療に従事する人材育成について、三重県健 康福祉部医療政策室と共に、取り組んでいます。

○地域医療学講座の活動

地域医療学講座には、医師である教員 3名、学術研究員1名、事務スタッフ1名 が配置され、診療、教育、研究の3つの活 動を行っています。

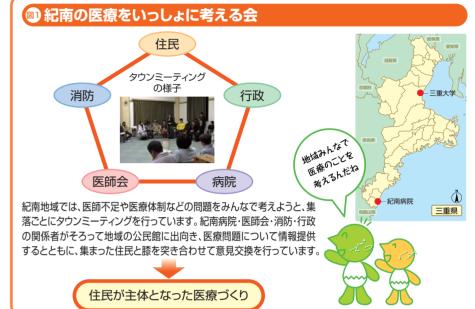
診療は、教員の専門領域において東紀 州の病院診療を部分的に支援しています。 教育活動としては、学生や研修医に地域 医療の魅力を伝えるべく授業を担当し、 地域医療実習や研修プログラムづくりと その紹介を行っています。学生・研修医は、 実際に地域に出かけ地元の方と交流して はじめて地域医療の楽しさややりがいを 実感します。いわば地域が医療の担い手 を育てるのです。これを、地域基盤型医 学教育といいます。さらに、地域医療を担 っている医師・医療従事者への教育支援 や地域住民への健康教育・啓発活動も行 っています。紀南病院には定期的に出向 いて、病院内外で行われている活動を支 援しています(左ページ写真、図1・2)。

研究テーマは、地域や診療科によって 医師不足が生じる背景因子の解明、遠隔 地で勤務する医師の診療・教育支援の方法、 医師の勤務環境などです。三重県の女性 医師復職支援事業にも協力しています。

◎これからの医療

最近、医療崩壊という言葉をよく聞きます。 その陰には、医療「過信 | と医療「不信 | が あるようです。いつでも最善の治療が受け られ、病気は治って当たり前、思うような結 果が得られなかったら医療ミスと決めつけ ては、医療従事者と患者のコミュニケーシ ョンは断絶するばかりです。

今や、日本全国医師不足です。病院の統 廃合も進んでいます。またどのような医療



🔯 住民ボランティアの協力を得て行うコミュニケーション教育

地域住民が医療従事者を育てるという認識をもっ て、地域医療学講座では住民ボランティアを募り 模擬患者として養成しています。ロールプレイを 用いた研修で、医療従事者は患者役の住民との会 話を通して、コミュニケーション能力を高めます。



が "最善" であるかは、その人の生き方や価 値観によって異なります。人間の死亡率は 100%、例外はありません。 医療技術の進 んだ現代だからこそ、本当に望ましい医療 について一人ひとりが考える必要があります。

医療の受け手と送り手が信頼関係を築き、 限られた医療資源を有効に活用して"最善" の医療を手にするための取り組みが、皆さ んお住まいの地域のなかでも進むことを 願っています。

****** お知らせ *****

休職中の医師の再就職支援

医師免許をお持ちで臨床の場から離れている 方はいらっしゃいませんか?

もう一度、自分のできる範囲で資格を活かした いとお考えの方がおられましたら、ぜひご連絡く

地域医療学講座では 無理のない再チャレンジを応援しています。



●お問い合わせは● **8** 059-231-5620

.07